

新 日 本 画 へ の 軌 跡

特別展
山口蓬春

1997年9月30日(火)～11月16日(日)

休 館 日 10月6日(月)、12日(日)、13日(月)、20日(月)、27日(月)、
11月4日(火)、9日(日)、10日(月)

開館時間 午前9時～午後5時(入館は4時30分まで)

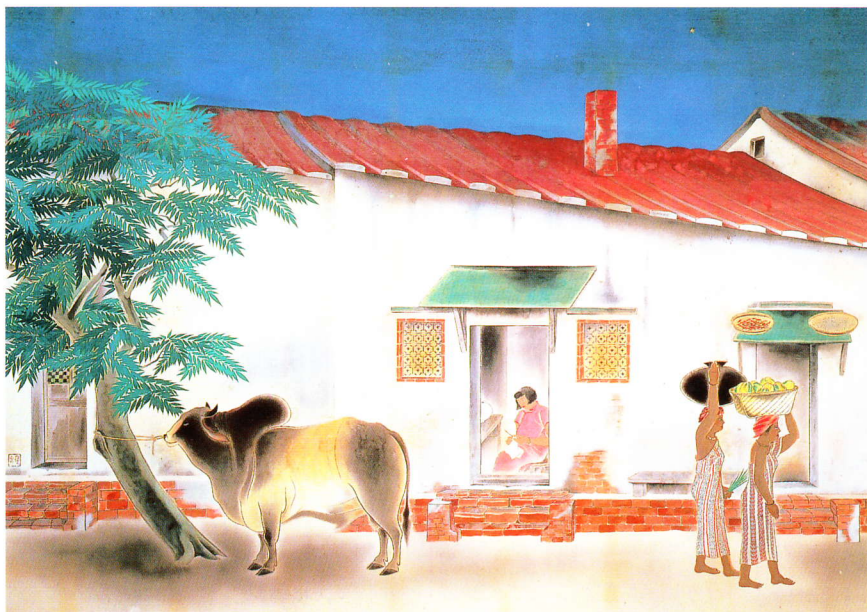
入 館 料 一般 300円、小・中学生 100円

主催 山口蓬春記念館(財団法人JR東海生涯学習財団)
渋谷区立松濤美術館

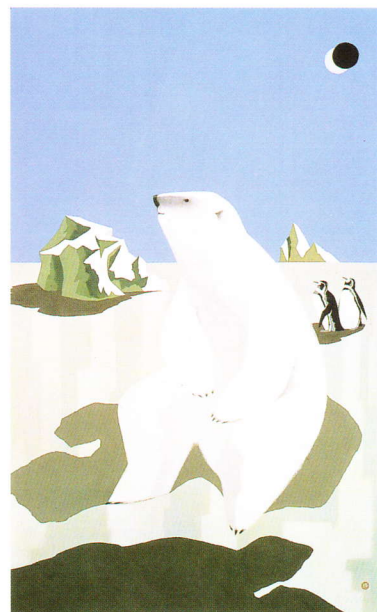
渋谷区立松濤美術館
THE SHOTO MUSEUM OF ART
東京都渋谷区松濤2-14-14 TEL 03-3465-9421



「那智の滝」昭和四年



「南嶋薄暮」昭和15年



「望郷」昭和28年

特別展

山口蓬春

新日本画への軌跡

山口蓬春(1893-1971)は、大正、昭和と激動の時代を伝統の継承と、時代に即した感覚の中で、新しい日本画の可能性を模索し続けた画家です。当時は新たに導入された洋画の流れと、古来からの伝統に根ざした日本画とが密接に絡み合った新日本画を創造する動きが盛んであり、現在の日本画のあり方や、今後の行方を考える上で重要な時代であったといえるでしょう。

北海道に生まれ東京で育った蓬春は、一時は洋画家を目指し、東京美術学校西洋画科に入学しながらも日本画科に転科、松岡映丘を師とします。卒業後、映丘の率いる新興大和絵会に参加、華々しい画壇へのデビューを果たします。その後大和絵という枠から抜け出しつつあった蓬春は、六潮会などの流派を超えた会に参加し、西洋画の経験と古典の研究をふまえて、独自の新日本画への挑戦を続けていきます。

様々な活動の中、蓬春の目指した新日本画は伝統的な技法を大切にし、日本画材の持つ素材の魅力を最大限に引き出しながら、実験的、造形的な画面作りで、時代を意識した絵画を創造することにありました。写実に裏付けられ造形面に重きをおいた蓬春の新日本画へのアプローチは、モダニズムと形容される世界を創り出してゆきます。

本展では、山口蓬春の初期から晩年の約90点を展観し、代表作の変遷、様々な活動をとおりて蓬春の新日本画への軌跡を辿ります。

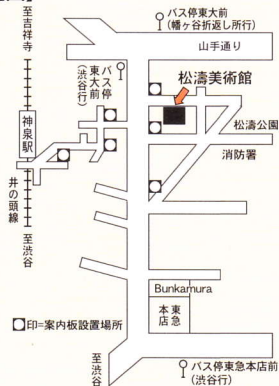
◆講演会

10月4日(土)午後2時~3時30分

「山口蓬春と現代」

講師 井上研一郎氏
(宮城学院女子大学教授)

【案内図】



渋谷駅下車徒歩15分 神泉駅下車徒歩5分



「潮音」昭和3年



「留園駐春」昭和33年



「市場」昭和7年 東京芸術大学芸術資料館蔵